令和7年度

マネジメントシステム研究会 オープン講座

# 「変わる環境規制法、変われるか企業の順法対策」

- EU法に学ぶ製品順法保証からサプライチェン順法保証の潮流への対応-

開催日時

オンライン(Zoom)

% 12.19 **13:30-16:30** 



# ゲスト講師 松浦 徹也 氏 一般社団法人 東京環境経営研究所 所長

▼受講料 3,000円(稅込)





EUや米国の環境政策は大きく転換期を迎えており、製品単体の順法保証から、原材料調達・製造・使用・廃棄・リサイクルまでを含むサプライチェーン全体での順法保証が求められています。

本講座では、環境法分野の第一人者・松浦 徹也先生をお迎えし、欧米の政策や主要規制法を通じて、環境規制法の最新の潮流をご説明します。

また、世界のデファクト法とされるEU法を踏まえ、「製品順法保証からサプライチェーン順法保証への対応」について詳しく解説。ISO9001等のマネジメントシステムへの順法要素の統合や、全社的な対応体制の構築に向けた実践的なヒントもご提供します。

### ▼対象者

- ・順法担当部署のご担当者
- ・品質保証部署のご担当者
- ・営業、開発、設計、購買、生産、サービス部署のご担当者
- マネジメントシステムとの統合に関わる方

# マネジメントシステム研究会について



参加会員(異業種・同業他社)による相互交流、情報交流を目的とした研究会です。参加企業の持つ、取り組むべき課題に対し、パネル討論・グループ討議を行うことで、また世話人からの話題提供やゲスト講演により、課題解決につながるヒント、気づきが得られる場として、ご活用いただけます。 オープン講座は、研究会会員以外の一般参加者もご参加いただけます。

本研究会は平成8年にISO9000の取得支援のために開かれ、規格の勉強や困りごとについて情報交換する場として開始しました。その後マネジメントシステム(以下MS)研究会として、品質・環境・化学物質規制・労働安全衛生などのMSを広く知って活用していただくため、有識者の方に世話人をお願いし、開催しています。

### サけら問▼

### プログラム

### 1. EUの環境政策とアメリカの環境政策の潮流

- 1-1. EUの基本政策の潮流
- 1-2. アメリカの基本政策の潮流

### 2. EUの基本的な法規制にみる求められる企業対応

- 2-1. GPSR(一般製品安全規則((EU)2023/988)の要求概要
- 2-2. PPWR(包装材規則包装材規則((EU) 2025/40)の要求概要
- 2-3. EPSR(エコデザイン規則((EU) 2024/1781)の要求概要
- 2-4. OSOR(1物質1評価)政策パッケージの概要

### 3. アメリカの基本的な法規制にみる求められる企業対応

- 3-1. 連邦法 TSCA(有害物質規制法(Toxic Substances Control Act))の要求概要
- 3-2. 新たな連邦法
- 3-3. 州法の要求概要
- 3-4. Topics

### 4. 求められるCAS(Compliance Assurance System)の考え方

### <u>5.ディスカッション</u>

2/27(金)

Q&Aを含めて受講生の皆様と情報交換をします。

ご不明点お気軽にご質問ください。

## 年間予定

日程	内容
第1回 6/27(金)	・令和7年度 年間活動計画について ・世話人からの話題提供 ・会員自己紹介
第2回 7/18(金)	・世話人によるパネル討論「事業プロセスとマネジメントシステムの乖離」 ・グループ討議
第3回 8/29(金)	・世話人講演① 大森先生「規格の裏返しでない システム構築」 ・事例発表 ・グループ討議
第4回 9/19(金)	・世話人講演② 松本先生「MS運用での血管、神経を考える」 ・事例発表 ・グループ討議
第5回 10/31(金) オープン講座	・ゲスト講演「私たちはどう生きるか〜人生100年時代に働くと学ぶ〜」 オンライン 講師:溝口伸明 氏 (技術・マネジメントシステムコンサルタント、研修講師 元 三菱重工業(株))
第6回 11/21(金)	・世話人講演③ 奥本先生「AIは内部監査の助けになるか?」 ・事例発表 ・グループ討議
第7回 12/19(金) オープン講座	・ゲスト講演 「変わる環境規制法、変われるか企業の順法対策 マロスに学ぶ製品順法保証からサプライチェン順法保証の潮流への対応~」 講師:松浦 徹也 氏 (東京環境経営研究所 所長)
第8回 1/30(金)	・ゲスト講演「ISOマネジメント、受審のtips(ヒント、秘訣、コツ)」 講師:榎本 徹 氏 (榎本環境カウンセラー事務所 代表、元世話人) ・事例発表 ・グループ討議
第9回	

「本年度の研究会で得たもの、次年度の研究会に期待するもの」

